

## 2023 年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長  
安形麻理

三田図書館・情報学会賞は、会誌である Library and Information Science に掲載された優れた論文に与えられる賞です。本年度は、88 号、89 号に掲載された原著論文 5 編を対象に選考を行いました。新たな研究領域の開拓という点から他にも候補となる論文はありましたが、さまざまな観点から厳正な審査を行った結果、以下の論文を学会賞として選考いたしました。

---

張心言. 日本の公共図書館における高齢者サービス研究の変遷と課題: 高齢者を取り巻く社会的動向を踏まえて. Library and Information Science. 2023, no. 89, p. 1-23.

### [授賞理由]

本論文は、日本の公共図書館における高齢者サービスに関する研究の時期ごとの特徴とその変遷を、高齢者を取り巻く社会的動向と結び付けながら考察したものである。公共図書館における高齢者サービスに関する文献 168 件をその刊行時期を基に 5 つに分け、高齢者に対する意識の萌芽、サービスの模索の開始、独立した利用者カテゴリーへの移行、高齢者への認識の深化及び対策の多様化、認知症への注目及び連携に向けた模索という時期ごとの研究の特徴を明らかにした。そのうえで、高齢者をめぐる社会的動向が、ほぼタイミングよく公共図書館における高齢者サービス研究に反映されていることを示した。

本研究の特徴は、社会的動向を政府の施策や老年学分野の多数の研究成果から読み込んだうえで、公共図書館における高齢者サービスに関する文献 168 件を丁寧に分析し、高齢者サービスの実践とその研究とが密接に結び付いていることを提示したことにある。1970 年から 2020 年までと長い期間を対象としたことにより、その時々の高齢者サービスの研究の主流を見るにとどまらない時期ごとの特徴を把握した点に大きな意義があり、今後の高齢者サービス研究の基盤となるものと考えられる。また、高齢者サービスの研究とサービスの実践の密接な結び付きを描き出したことは、サービスの実践を重視し、それと密接に関わる形で発展してきた図書館情報学という学問領域の性格を反映しているといえる。

他方、公共図書館における高齢者サービス研究と高齢者サービスそのものの区別が必ずしも明確ではない点や、日本の高齢者サービス研究に関する海外の文献が扱われていない点、考察がやや薄い点には物足りなさも感じられる。しかしながら、これは本論文の意義を大きく損なうものではなく、今後の研究の発展への期待も込めて、学会賞に値すると判断した。